

Genshin Unofficial fanbook

ADULT ONLY
R18

輝

泥中一咲

Kazuha

×

Wanderer

夜

presented by **RIKU**

attention

この本は、前々作「風のまにまに」と前作「五百年後の七夕」と物語がリンクしています。
本作だけでもお読み頂けますが、前作を読んで頂けると二度おいしい内容になっています。

- ※本作の万葉と放浪者は恋人同士です。
- ※成人向けの表現があります。18歳未満の方の閲覧は固くお断りいたします。
- ※何でも許せる人向け。



死ね!!





フンッ
雑魚が

ゴッ



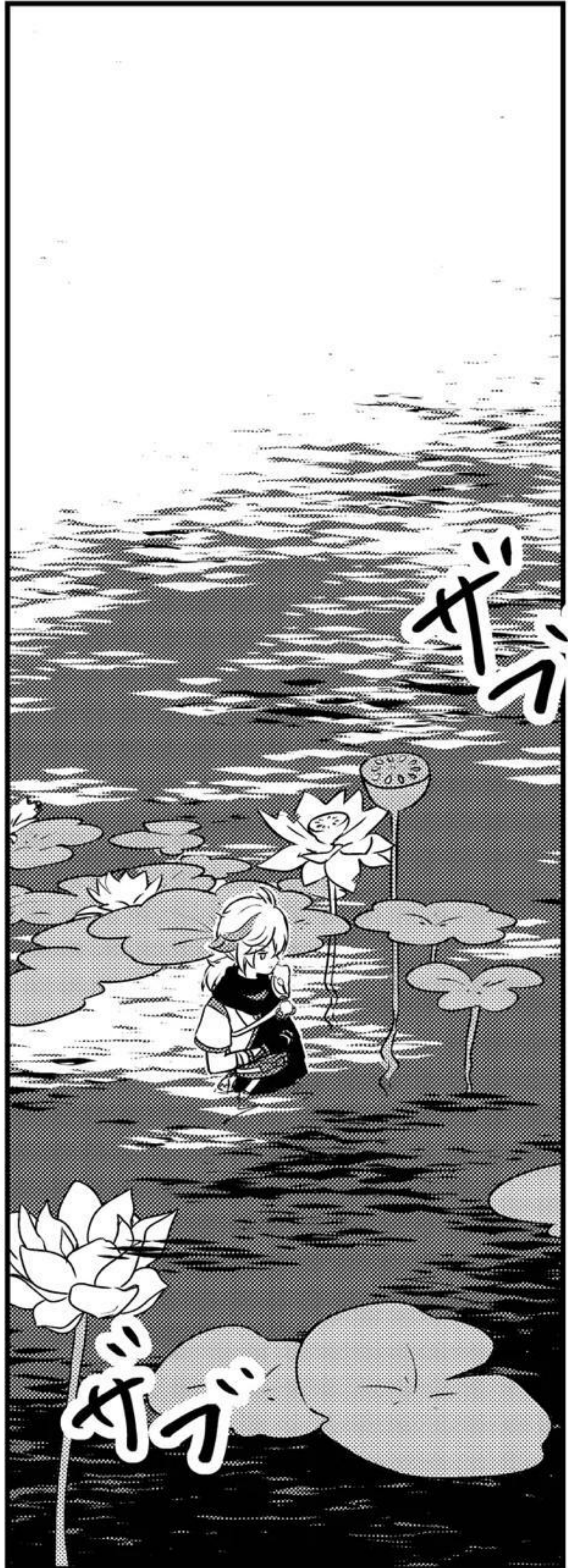
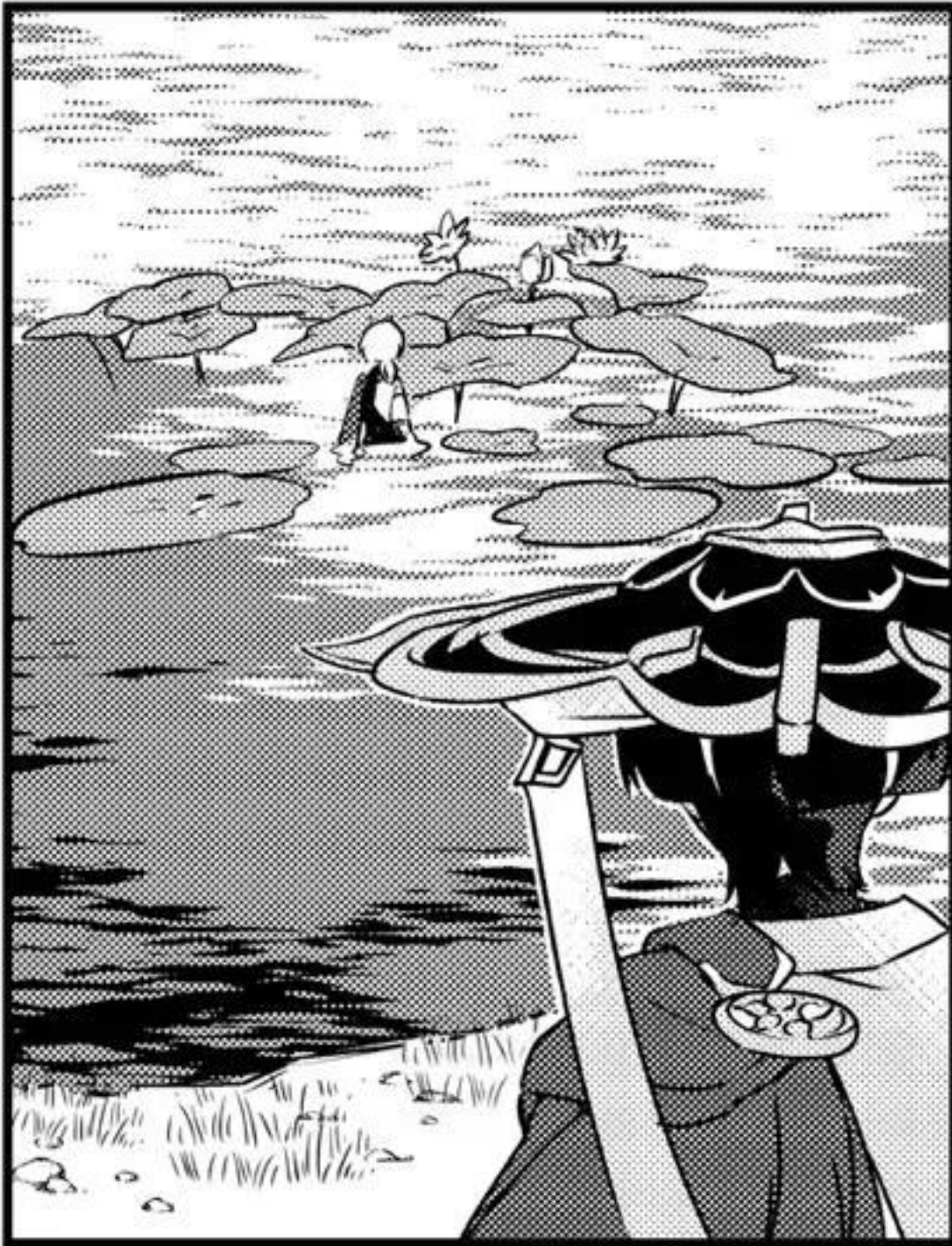
その客を狙って
あらゆる悪漢が
蠢きだすから…らしい

僕は今、
璃月の沈玉の谷で
用心棒の仕事をしている

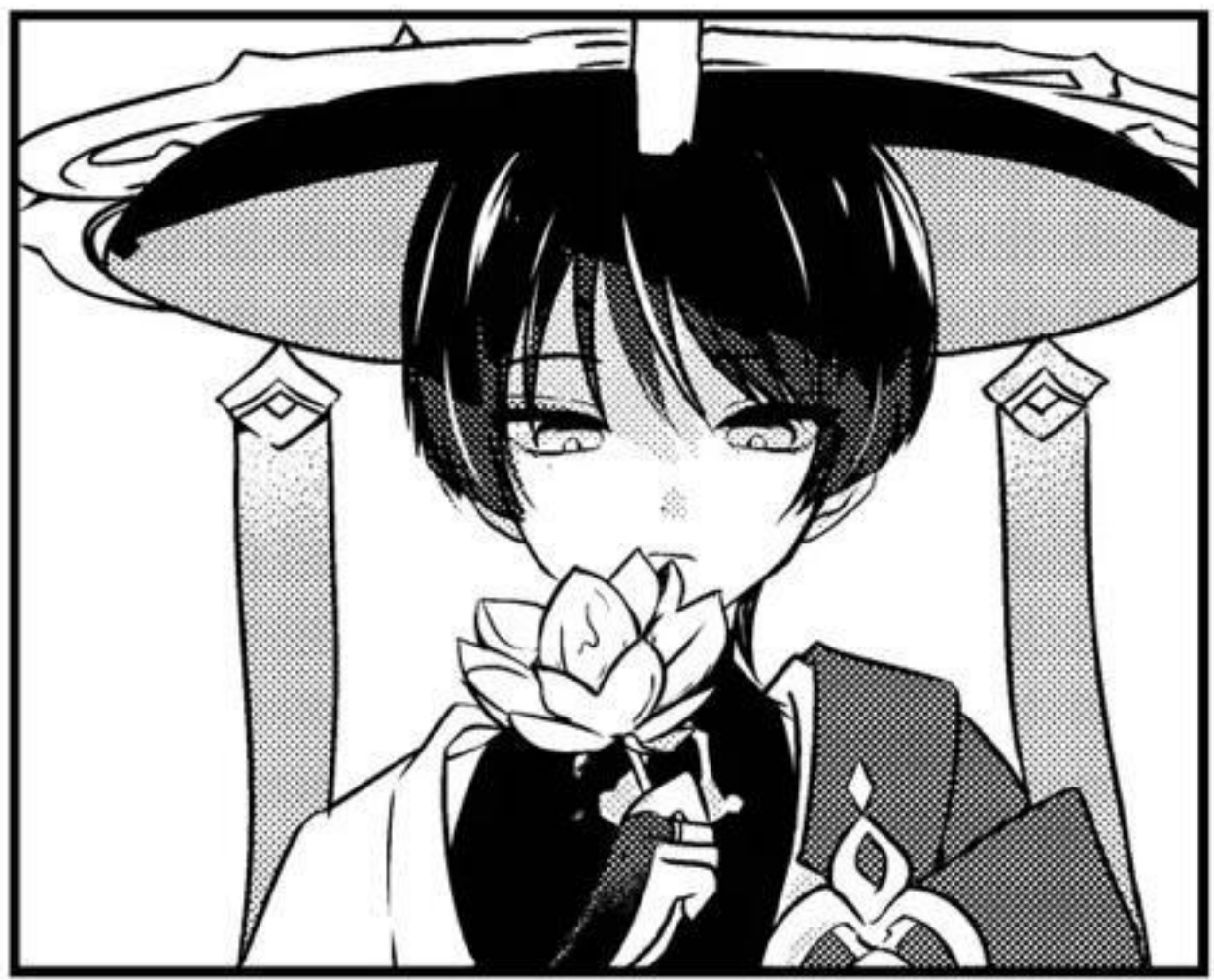
まもなく開かれる
年に一度の海灯祭を前に
テイワット中から
あらゆる客人が訪れる

そもそもここに赴いたのも
草神の使いっぱしりなんだが
成り行きで幾日か
働かされることにな
ってしまった

おっし
沈玉仙茶が
のみたいわ

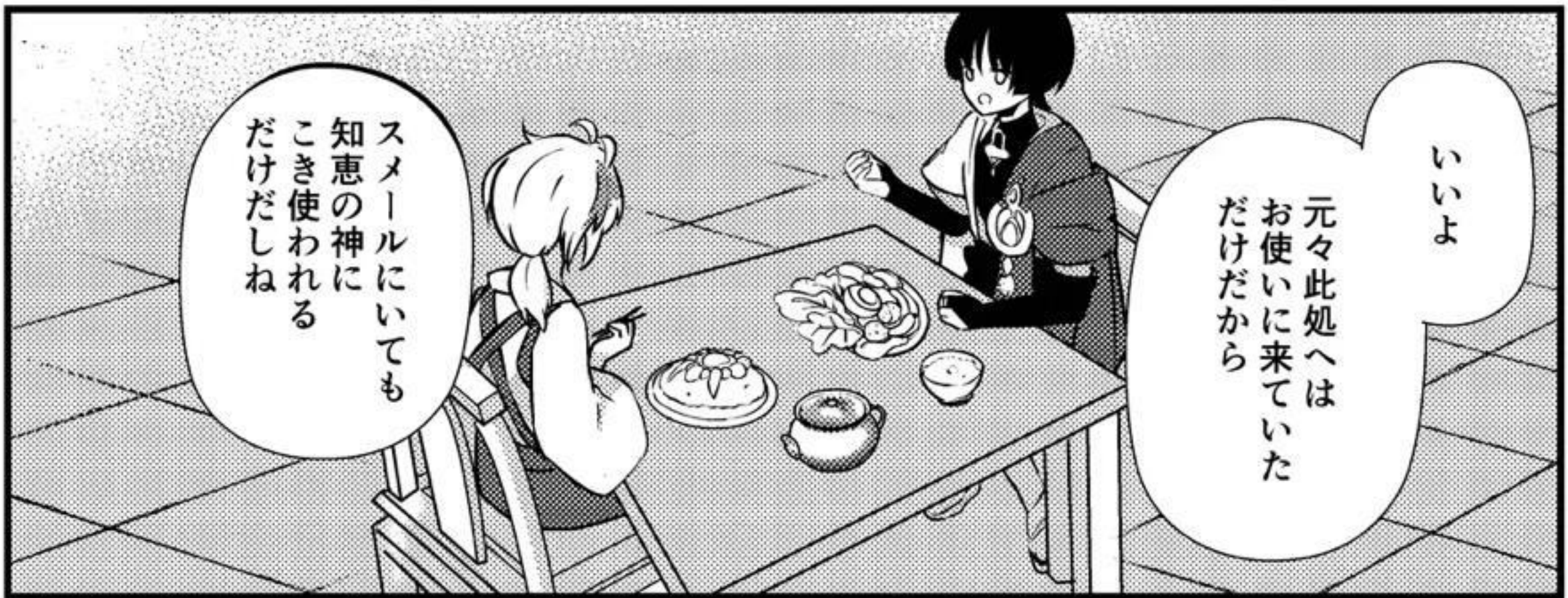
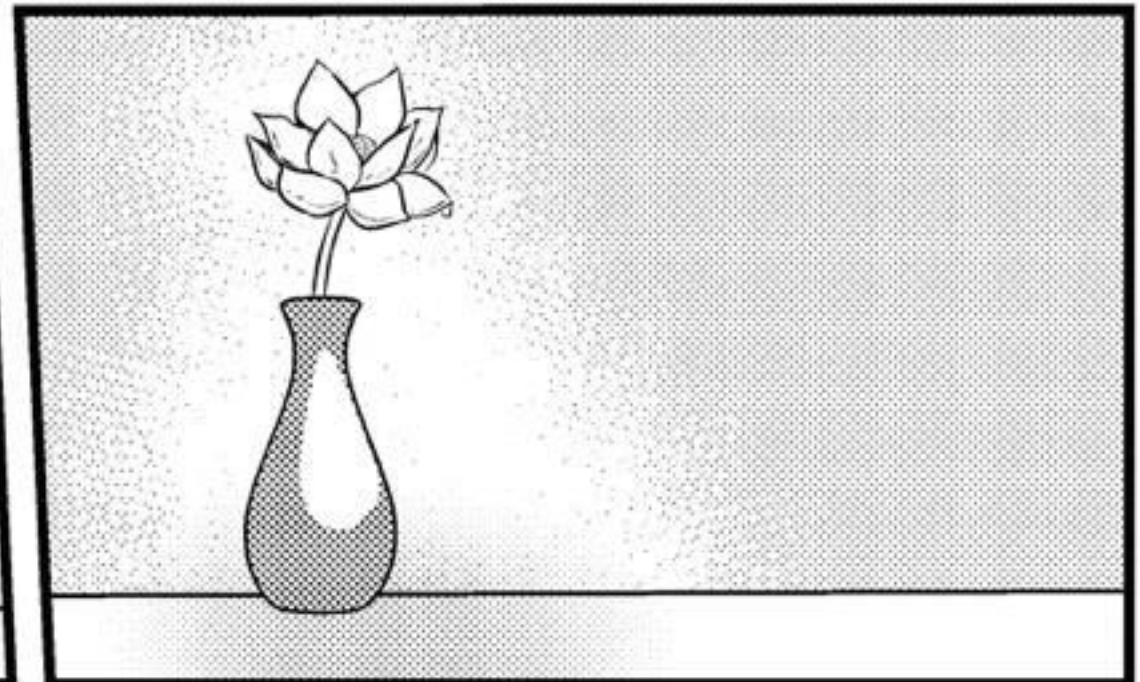
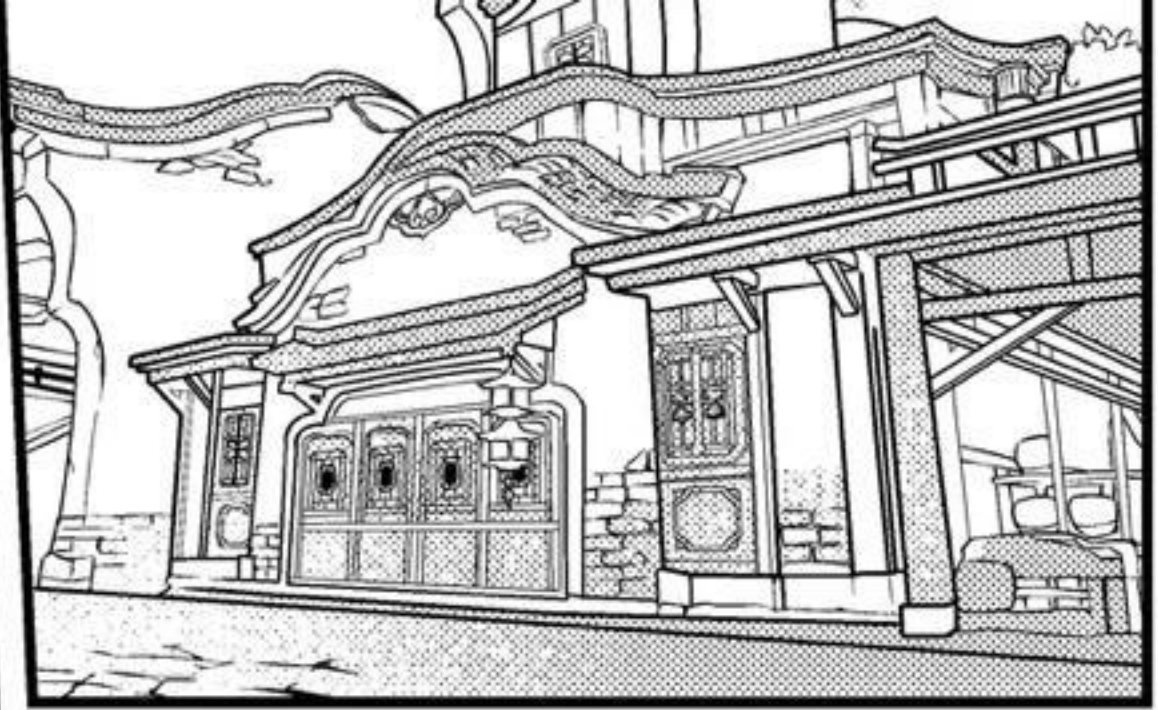








成り行きとは故
お主まで
手伝わせてしまっ
すまないでござる



スメールにいても
知恵の神に
こき使われる
だけだしね

元々此処へは
お使いに来ていた
だけだから

いいよ



今現在、僕と万葉は璃月の遺囑にある
民宿の女将に雇われ
住み込みで働いている
海灯祭前後の繁忙期の間だけ
猫の手も借りたくらい
繁盛するらしい

おまかせ
ござる

先に働いていた万葉とは
昨年、海灯祭ぶりに
偶然再会した



人形

そうであった!

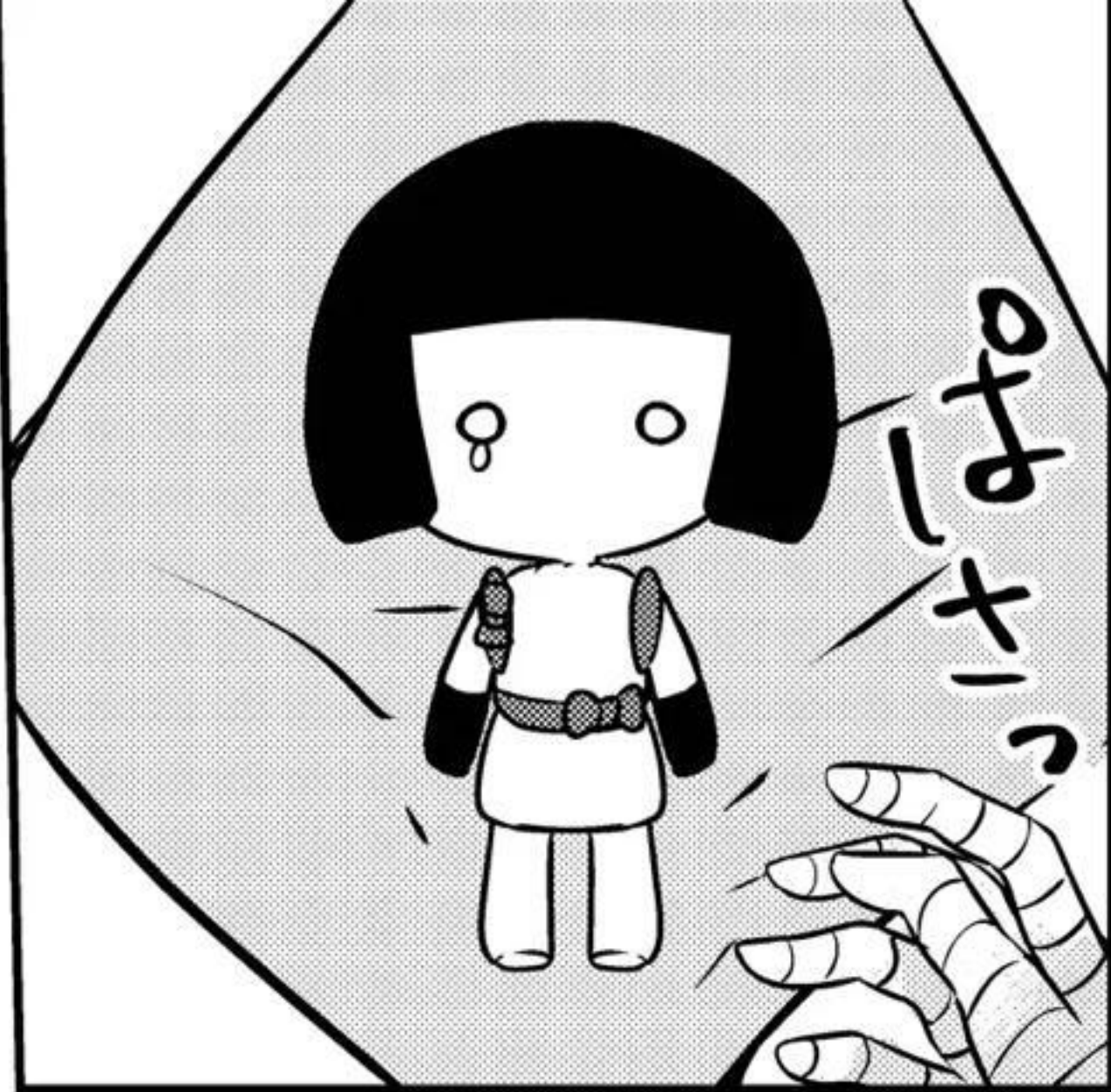
ずっと
返しそびれておった

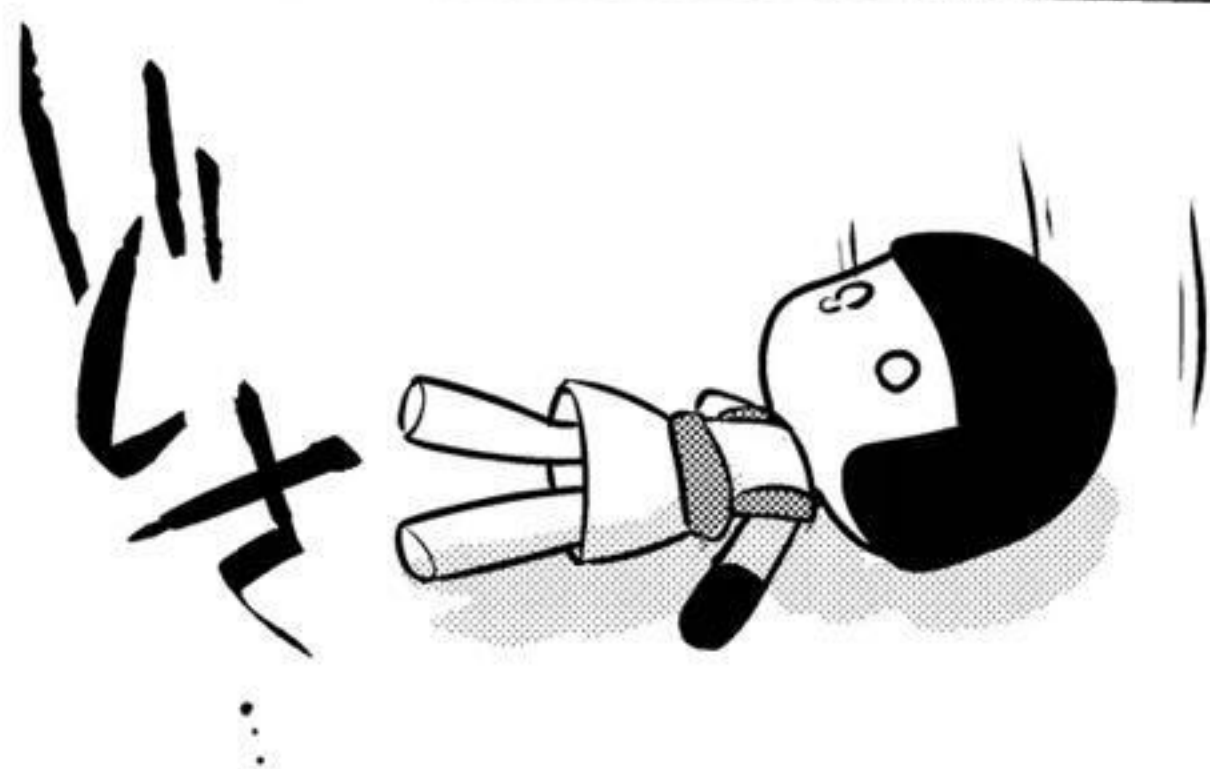


旅をしている間は
懐にずっと忍ばせて
おったから

戦闘で傷が付かなくて
良かったでござるよ

ひゃっ

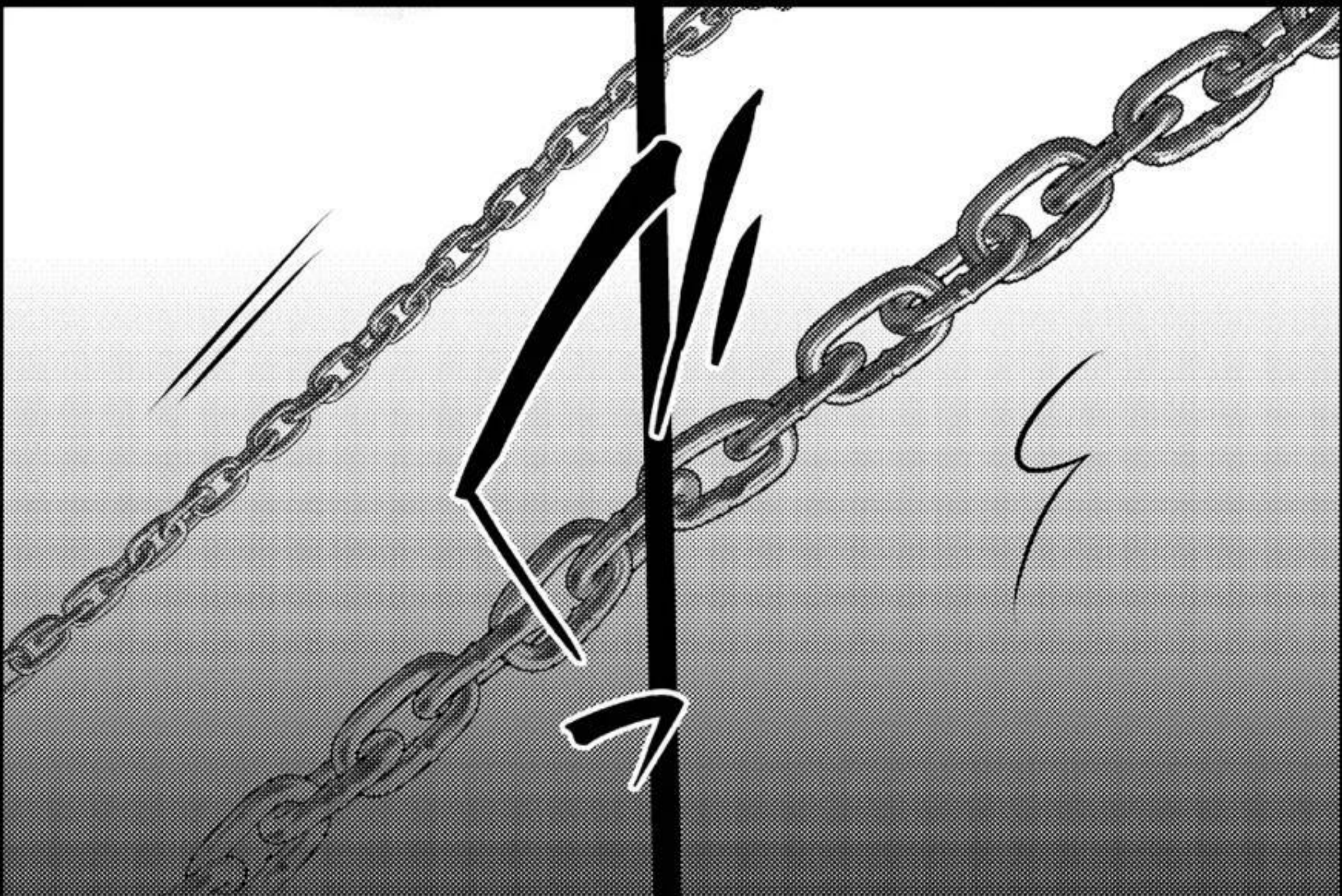






僕の事を
愛してよ

その人形より



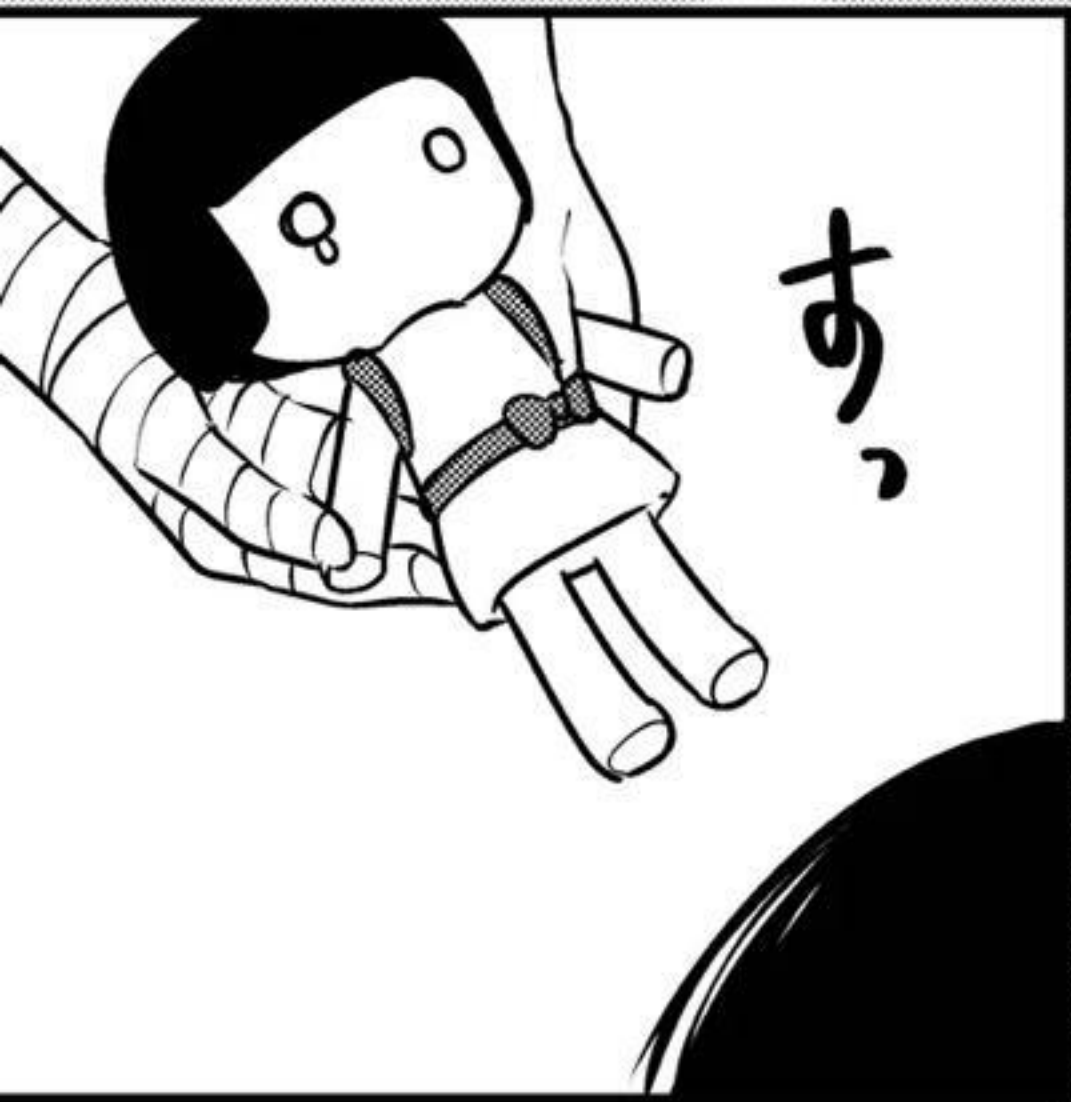


博士のとこに
居た頃は
僕が美しく
魅力があるばかりに

毎日大勢の男達に
身体を求められて
いたのに何故…

もしかして
愛するに値しないのか…!?

い
ぬぬぬぬ



もっと
自分の身体を
大切に
するよ
ござるよ





この空っぽの
器を？





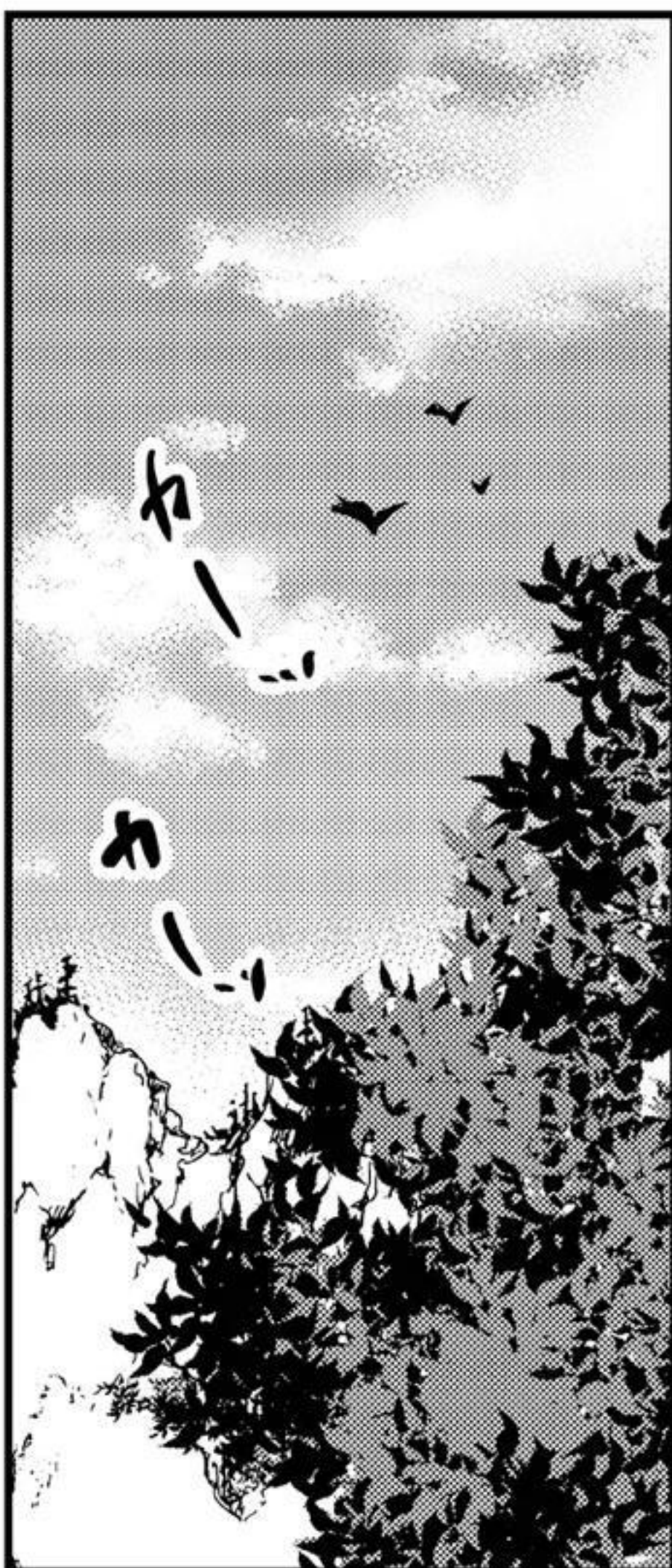


水が汚染
されただけで
枯れてしまう
ものなのか

呆気ないね

蓮が全部枯れてる
これは…？

魔獣に
荒らされて
水が濁って
しまったので
ござる



せっかく
君が育てていたのに
残念だったね

…

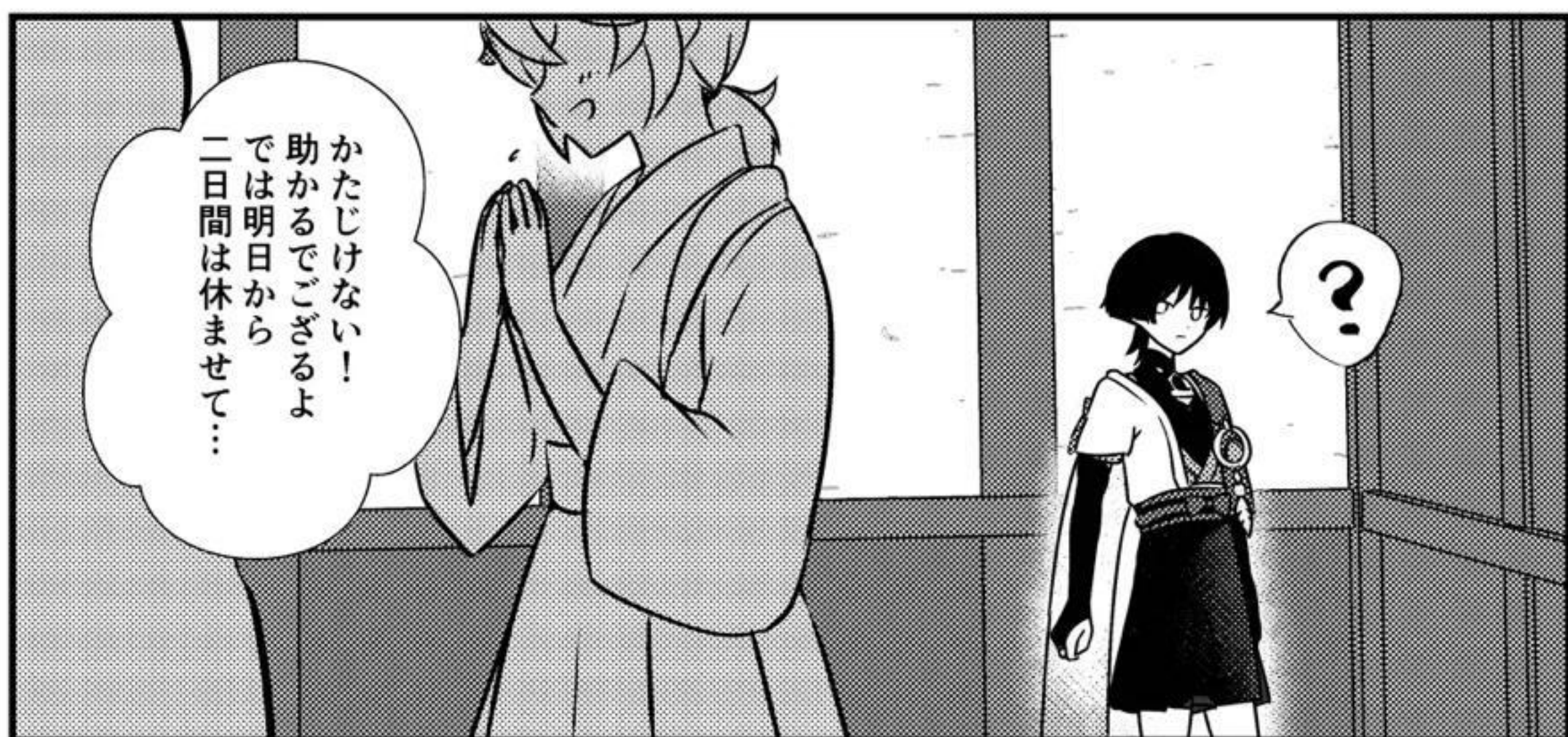
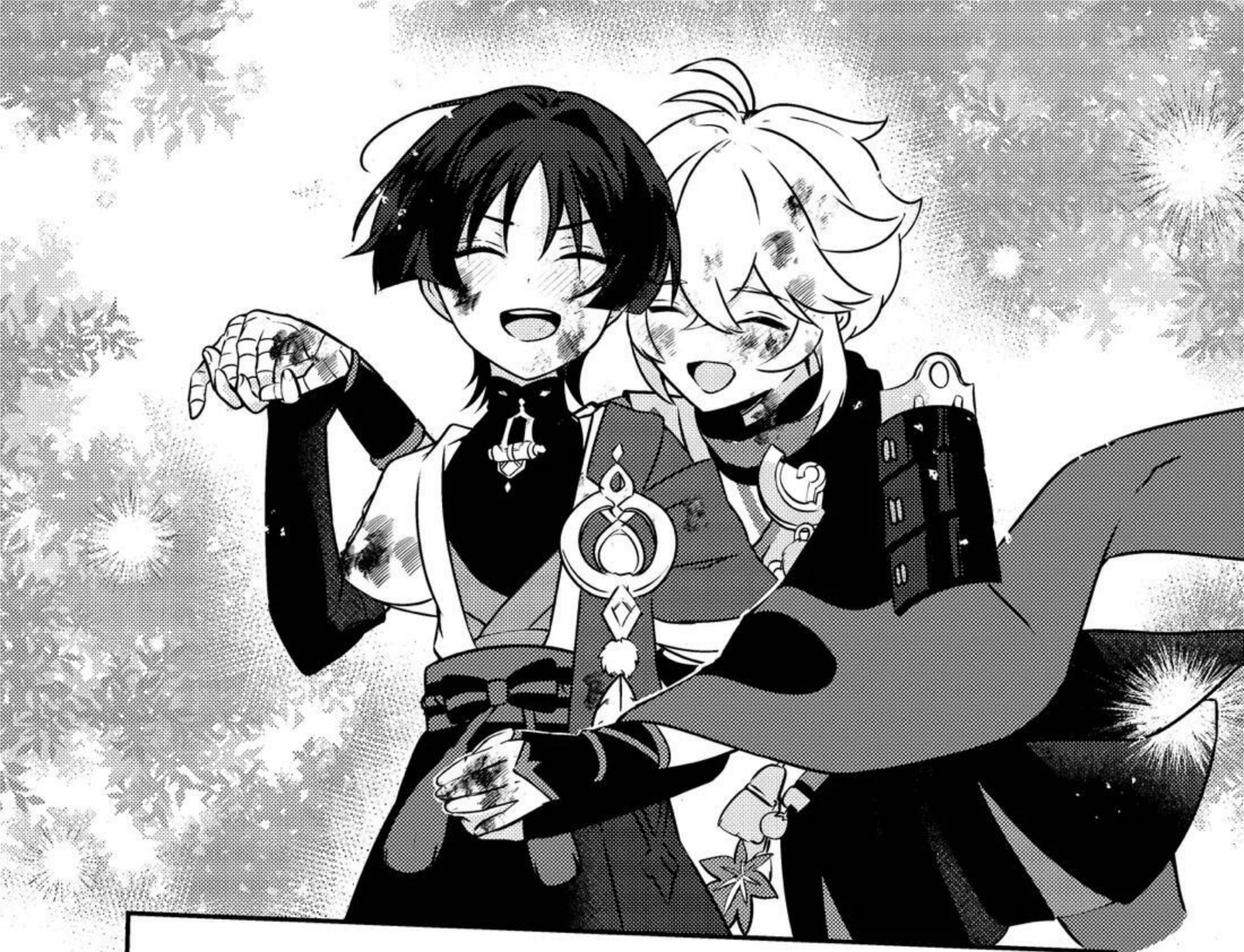
あゝ



まだ別の
利用方法が
あるでござるよ…

ござる

ござる





けいけい

けい

けい

けい






真

女


毎年
趣向を凝らして
何度来ても
素晴らしい祭り
でござるな

少し休もうか
ここから少し離れた場所で
見晴らしの良い
宿を取っておるでござる

まさか二年連続で
君と海灯祭に
赴くなんて
思いもしなかったよ




見晴らしはよく
月を眺めるには
最高の場所でございますよ



歴史は長く
高貴な仙人も時折ここで
月光を浴びているらしい

歴史が長い…ね



望舒旅館は
荻花洲を象徴する建物で
巨大な岩柱の上に
建つ旅館でございます



璃月の歴史は
どれだけ長くても

そこで生きている
人間は脆いから
すぐ亡くなって
しまふんでしょ？



なんて
言えないけどね

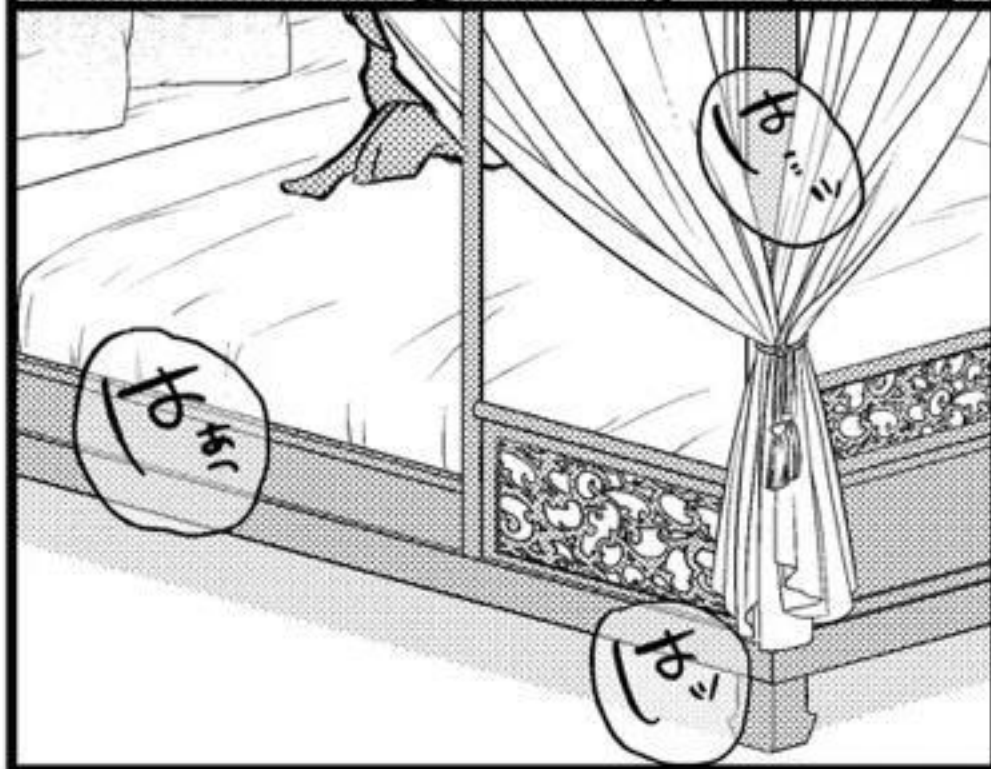


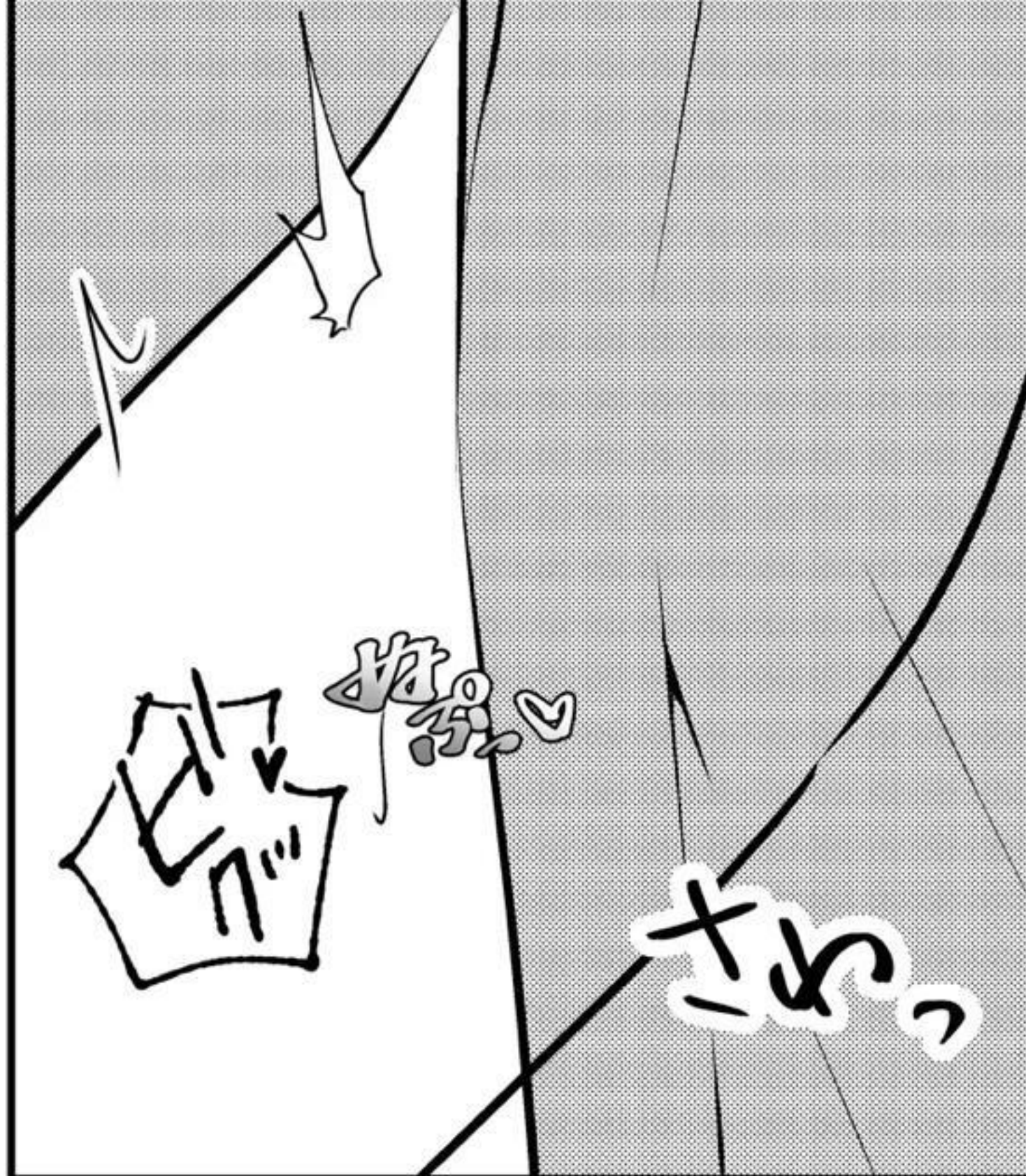
望舒旅館は
恋人と一緒に
月を眺めるには
最高の場所
でござるよ



お主と初めて
愛を分かち合う夜には
うってつけの
場所であろう？

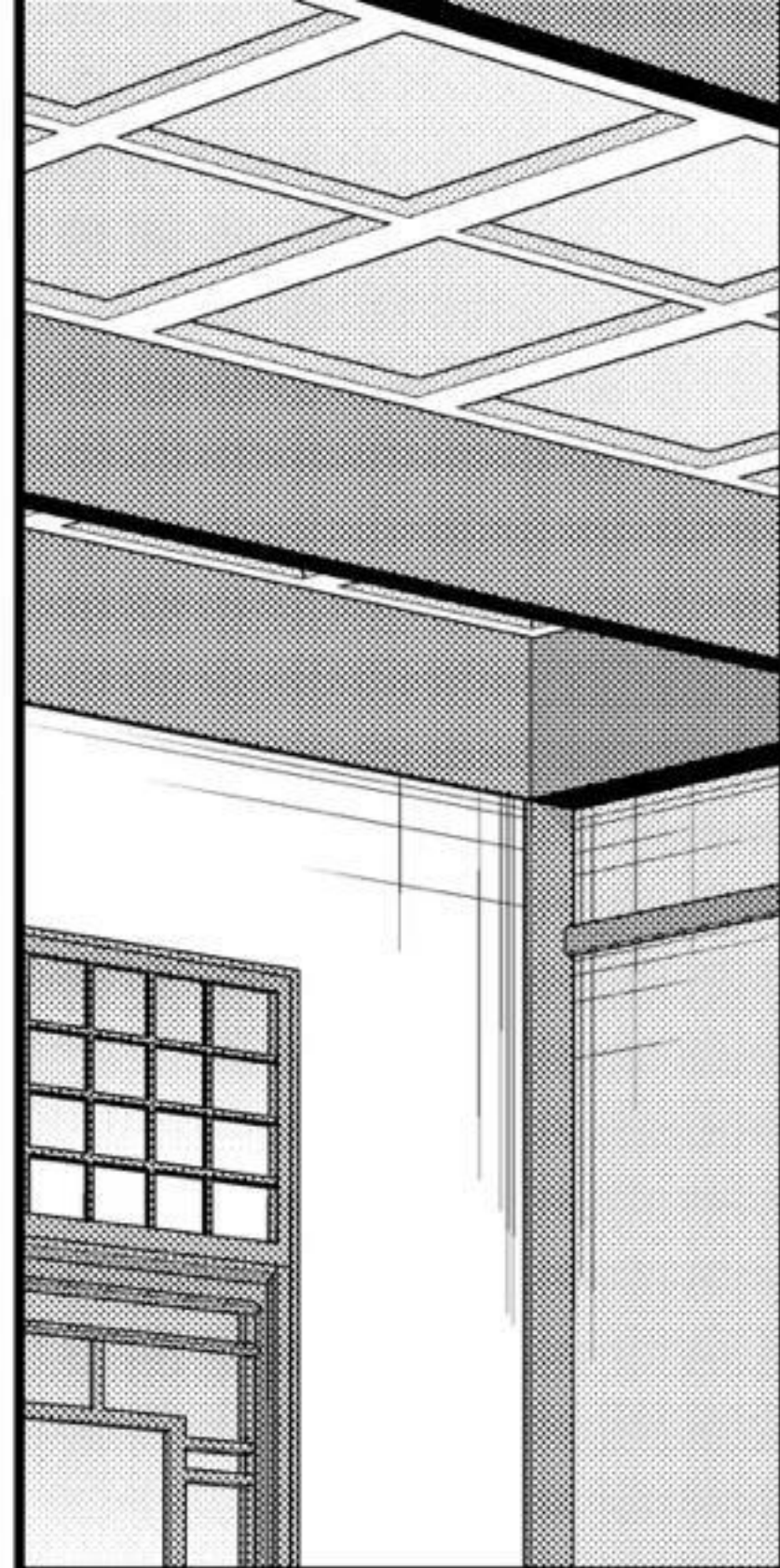






好き♡

ふっ



慣れてるって
言いたいの？

別に会ってない間
君以外の誰かと
していたわけじゃないよ…



…

妻く柔らかい
でござる

ドキ

ドキ



なら、ひとりです
してたでござるか？

逢っていなかった
一年間…
ずっと君の事を考えて
してた…

では
同じでござる

拙者もお主の
腰に打ち付けて

一番奥で
射精すること
ばかり考えていた
でござる



…ふうん
君もそういうこと
言うんだね

拙者も男であるからな
お主もそうでござらうう？











ひんひん

ん...っ



ちぢ...

は...は...



万葉...っ

ずっと君に
こうしてもらおう事を
夢に見ていたんだ





オチオチ

オチオチ

オチオチ

オチオチ

オチオチ

オチオチ

シッパッ

シッパッ

シッパッ

オチオチ

オチオチ...

もっと...
強く...

痛い...痛い...
して...

オチオチ

オチオチ

オチオチ...

出来ぬ…
お主は

拙者の大切な
恋人でござる





万葉の精液
僕の中に
全部欲しい……っ

万葉……っ

あ……

あ……

あ……



あ……

あ……

あ……

あ……

あ……



あ……

あ……





万葉...



...

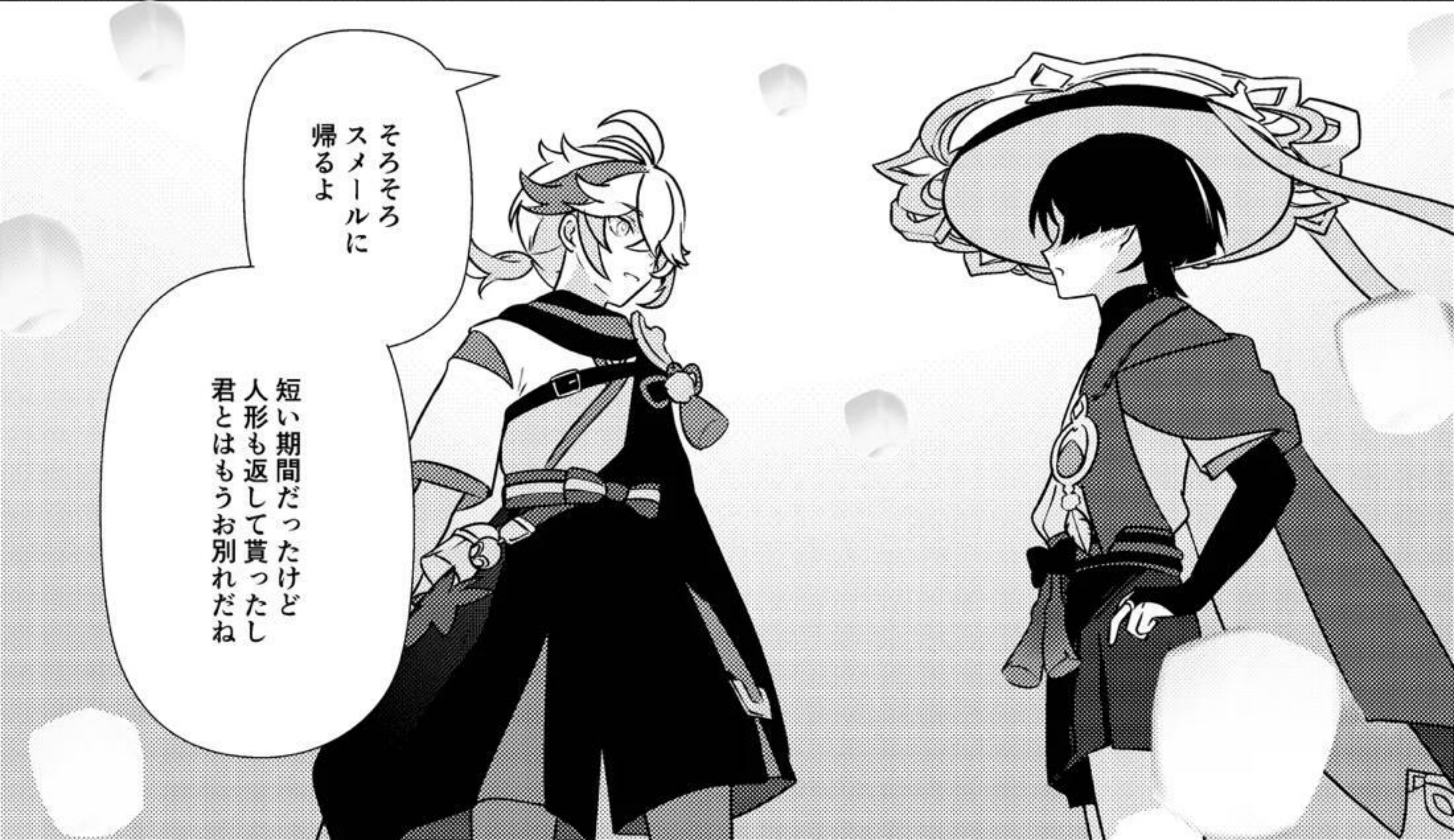


ずっと同じ時を
生きられないって
分かっているのに

なんで
僕はいつも
人に惹かれて
しまうんだろうね



結局
海灯祭の最終日まで
過ごしてしまっただね



そろそろ
スマールに
帰るよ

短い期間だったけど
人形も返して貰ったし
君とはもうお別れだね

寂しいが
仕方ないでござるな




…そうか

この人形を
燃やして
灰にすれば



永遠の命が手に入る





人間の命は優く
とても短い

永遠の命を
君に
あげると言ったら
どうする？

お主と
二度と会えぬなら

永遠の命など
何の意味も
無いでござるよ





別に
一生会えなんて
言っていないだろう！

フ…っ



人間の短い
一生のうち

あと何回かは
逢ってあげても
いいかもね!?

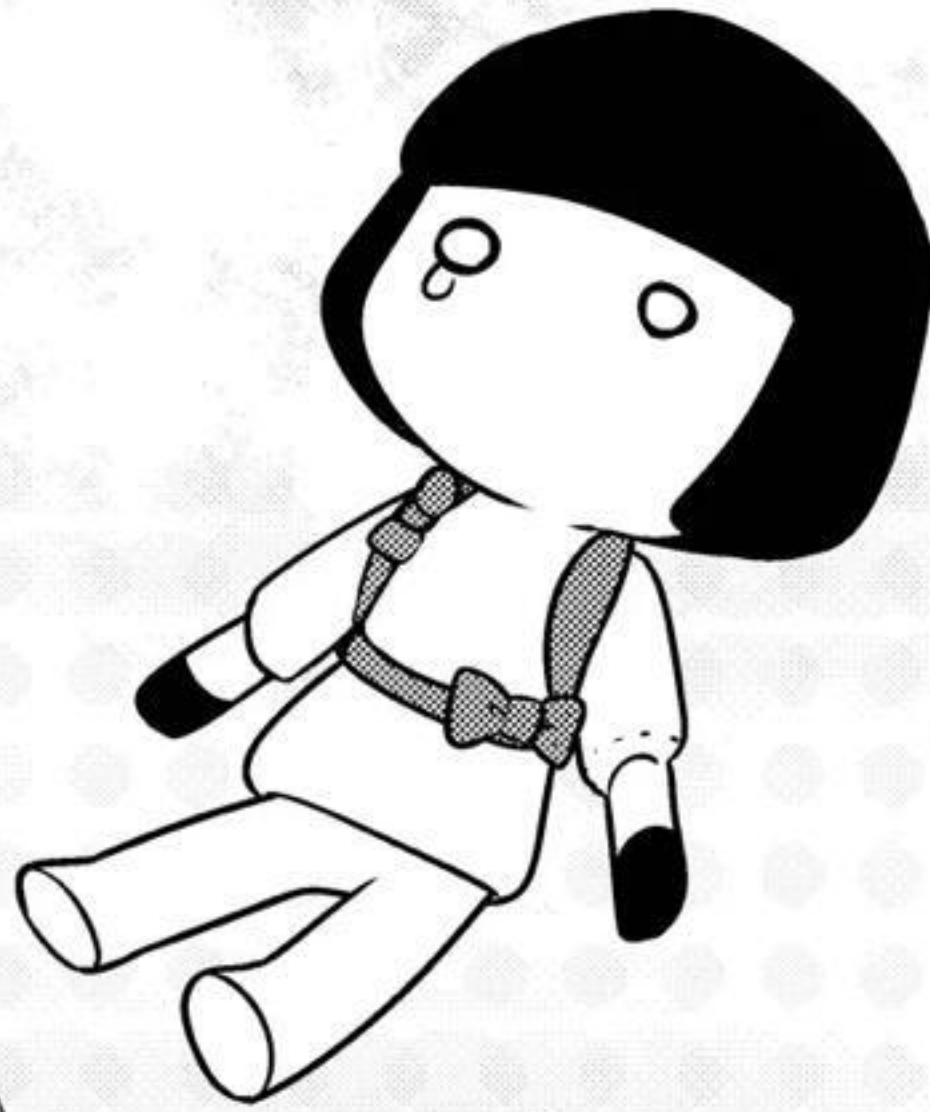


あははっ
本当に
不器用なお方だ

結局また
拙者の手元に
戻ったので
ござるな



拙者とお主は共に流浪人



繋ぐものがあれば
遠距離恋愛も悪くないでござるな

泥中に咲く輝夜

発行日 2024.5.5

発行元 りくりく

ダウンロード版

陸-riku-

X(旧Twitter) @rrr_gns

メールアドレス riku0215798@gmail.com

最後まで読んでくださってありがとうございました。

前々作「風のまにまに」から1年かかってしまいましたが、二人の物語を描けて嬉しいです。

この物語が少しでもお気に召しましたら、幸いです。

感想は、お手紙やXのDM、メンション、メールなどで

お気軽に送って頂けるととても活力になります♪

※この本は個人的に作られた非公式ファンブックです。
原作、そのほか著作権関係者様とは一切関係ありません。
下記の注意事項をご確認の上、お楽しみいただければ
幸いです。





輝夜
泥中に咲く

Genshin
Unofficial fanbook

Kazuha × Wanderer

presented by

RIKU